



霧ともやは、どっちがうの

霧も、もやも、小さな水のつぶ

朝起きて窓の外を見ると、あたり一面白い霧につつまれて、遠くがよく見えないことがありますね。

霧は、水じょう気が小さな水のつぶになって、空気中にうかんでいるもので、1キロメートル未満しか先が見えないときを「霧」とよび、1キロメートル以上先が見えるときを「もや」とよんでいます。

急に気温が下がった夜にできやすい

水じょう気をふくんだ地面近くの空気が冷やされると、ふくみきれなくなった水じょう気が、小さな水のつぶになり空気中にうかびます。こうして、霧ができるのです。

霧には、晴れた寒い夜にできるほうしゃ霧、山にでる山霧、海面にでる海霧、川面にでる川霧などがあります。（監修 村山貢司）

